

「北極圏旅行記 2017 夏 (27)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/31 スウェーデンのアビスコへ～

国道E10号線は、スウェーデン国境に向けて、スカンジナビア山脈を上り、標高をあげていった。



国境の手前で、一か所だけ、フィヨルドの海が見える場所がある。ここで昼食のパンとチーズを開いて一息入れることにした。眼下のフィヨルドは、数日前にフェリーで渡ったヴェスト・フィヨルドの最奥部で、ナルビクに渡る吊り橋がある。ナルビクはノルウェーの港町で、スウェーデンからの鉄道の終着駅でもある。鉄道はこの写真の場所から見て対岸の崖を通っている。毎日、イエリバーレやキルナ（いずれもスウェーデン・ノルボッテン州の街）で産出した鉄鉱石を、長大な貨物列車でナルビク港まで運んでいる。



国境が近づくと樹木は激減し、広漠とした景観になってくる。



ここがノルウェーとスウェーデンの国境。今回の旅行中、3回目の国境通過である。自動車の場合も、税関に申告するべき荷物がない場合は、パスポートチェックはなく、そのまま徐行で通過できる。



スウェーデン側最初の看板。「ノルボッテン州、ラップランド、キルナ郡（コミューン）」と書いてある。



スウェーデン側最初の鉄道駅。急行は停車せず、一日一往復だけの停車。冬でも暖房が入り、トイレもあるので、ちょっと休憩に使える。



高度はどんどん下がり、アビスコの街が近づいてきた。晴れていれば、眼前に Lapporten (ラポーテン) の素晴らしい山容が見えるはずなのだが、残念。



部屋からは、トーネ湖がよく見える。残念だったのは、すぐ裏手の国道が工事中で、騒音がすばらしかったこと。それ以外は最高の部屋だった。



ここが今日の宿泊地の「アビスコ・ゲストハウス」広々としていて、キッチンや浴室も清潔。寝室以外は、フィンランド人のご夫妻とシェアで、その方々との会話も楽しかった。



ここが仕事場。もちろん無線 LAN が無料で使えるので、メールや次の宿の予約確認もバッチリ。



2004年1月撮影 / C.Tanaka

このゲストハウスに宿泊するのは、5回目になる。ほとんどはオーロラの時期に来ている。冬や春には、この写真のように、ゲストハウスの頭上に、素晴らしいオーロラが舞う。冬のアビスコは、氷点下 30°C にもなるが、部屋の中からも見えるので、安心してオーロラ観望を楽しむことができる。